

三鷹の森学園



様式6	平成29年度 三鷹の森学園の評価・検証 結果報告	
検証項目	(1) 人間力・社会力の育成	
	○他者との適切な関係を構築する力の育成 ○他者と共に自己実現を図っていく力の育成 ○地域や社会等へ貢献する力の育成 ○その他	
目標	・個性を發揮し、自己有用感を育て、自己実現を図る意欲を育てるようキャリア・アントレプレナーシップ教育、オリ・パラ教育等の一層の充実を図る。	
取組	1. 学園全体で「社会に開かれた教育課程」を作成し、カリキュラム・マネジメント機能を向上させながら、「人間力」「社会力」の育成を目指す。 2. 小・中9年間の英語カリキュラムを平成29年度中で作成し、30年度実施とする。 3. CSと協働し、英語が使える実感を味わえる体験プログラムを実施する。	
	成果	課題と改善方策
	1. 学園全体で「社会に開かれた教育課程」を作成し、カリキュラム・マネジメント機能を向上させながら、「人間力」「社会力」の育成を目指した。 2. 新学習指導要領を踏まえた小・中9年間の英語カリキュラムの検討を進めた。高山小では30年度より英語(外国語)を新学習指導要領に準じて実施する。 3. CSと協働し、英語が使える実感を味わえる体験プログラム(英語交流会)を実施した。	○以下の新学園教育目標の実現に向けた教育課程編成とその実施 1. 社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力 2. 自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力 3. 多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力 4. 困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力

検証項目	(2) 学校運営について	
	○小・中一貫教育校の学園組織の活性化 ○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化 ○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化 ○その他	
目標	・三鷹の森学園の特色の明確化・焦点化を図り学園運営に当たる。また、2～3年間の中期的な視座から目標設定を行う。	
取組	1. 学園全体で「社会に開かれた教育課程」を編成し、CS委員会はもとより家庭、地域と連携・協働する機会の充実を図る。 2. コミュニティ・スクールの強み、小・中一貫教育の効果の検証方法を考察する。 3. 「学園学習サポーター」(仮称)を募集し、小・中を超えた人財バンクを作成し、これを活用するシステムをつくる。	
	成果	課題と改善方策
	1. 学園・学校の教育計画において「社会に開かれた教育課程」を編成し、CS委員会はもとより家庭、地域と連携・協働する機会を充実した。 2. 三鷹の森学園の人財や資源などの強みを生かした小・中一貫教育を実施することができた。 3. 「学園学習サポーター」を募集し、学園共通の人財バンクを作成した。これを活用するシステムを作り、平成30年度に本格的に始動する。	○CS委員会が設置した「学園学習サポーター」を、各学校がより多く活用する実施計画を年度当初に立て、地域と一体的となった教育活動を実施する。

検証項目	(3) 小・中一貫教育校としての教育活動	
	○小・中学校間相互乗り入れ授業 ○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動 ○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況 ○その他	
目標	・次期学習指導要領の方向性を踏まえた資質・能力の育成とその指導法に関する研究を進める。	
取組	1. 新学習指導要領についての教員研修の推進 2. 新学習指導要領の趣旨・内容などに関する保護者への情報発信の充実 3. 小学校児童会、中学校生徒会の一層の協働活動の実施	
成果		課題と改善方策
1. 学園研究で主体的に新学習指導要領について学ぶ研修体制をつくり、これを計画的に推進した。 2. 学校便りや保護者会、PTA 運営委員会などを通じて、新学習指導要領の趣旨・内容などに関する保護者への情報発信を充実した。 3. 年度初めに児童会・生徒会の熟議を行い、「人を大切にする」のテーマのもと、学園・学校における特別活動の充実を図った。		○学園研を一層充実し、小・中一貫カリキュラムの迅速な改善と確実な実行を通じて、9年間の学習を確立する。 ○英語教育においては、小・小の連携、小・中の連携、地域の協力により、学習を充実し、活用する喜びまで高めていく。 ○必ず保護者への説明の機会を設ける。

検証項目	(4) 児童・生徒の学力・健全育成	
	○ 児童・生徒の学習意欲 ○ 各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○ 小学校と中学校の評価の一貫性 ○ 不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援	
目標	学力	・基礎基本の定着、思考力・表現力・判断力の育成・向上を適宜評価し、9年間の発達段階に応じて授業のアクティブ化を図る。
	健全	・いじめ、不登校、問題行動等に迅速・適切に対応できるよう教育相談機能の向上を図る。
取組	学力	1. 言語能力、情報処理能力、問題発見・解決能力等の基礎となる資質・能力の育成を図る。 2. 各教科の特性を生かした言語活動、体験活動やICT等を活用した学習の充実を図る。 3. 学習活動を実施にあたり家庭や地域との連携・協働場面の明確化を図る。
	健全	1. 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を児童・生徒会活動をさらに活性化を図る 2. 障害のある子供、海外から帰国した子供、不登校の子供など特別な配慮を必要とする子供への指導の充実を図る 3. 指導にあたり家庭や関連諸機関、地域との連携・協働場面の明確化を図る
成果		課題と改善方策
学力 1. 日々の授業をアクティブ化し、言語能力、情報処理能力、問題発見・解決能力等の基礎となる資質・能力の育成を図った。 2. 各教科の特性を生かした言語活動、体験活動やICT等を活用した学習の充実を図った。 3. 効果的・効率的な教育活動を行うにあたり、「6つの学習習慣」を家庭と共有しながら、H29 三鷹市小・中一貫カリキュラム（暫定版）の内容を踏まえて、「三鷹の森学園小中一貫カリキュラム」の検討を始めた。		学力 ○学園教育目標を踏まえ、 「社会の変化に対応し、自ら学び、知識・技能等を主体的に更新する力」 「自ら問題を発見し、筋道立てて考えたり、試行錯誤したりしながら問題を解決する力」 の育成を図る。そのための教育計画の立案・実行を図る。 ○「小中一貫、三位一体で取り組むアクティブラーニング」に掲げた「6つの学習習慣」を、教師、子供、家庭がそれぞれの立場から解釈し実践できるよう取り組みを行う。 ○基礎学力の定着に留まらず、主体的に学ぶ態度を育成する。
健全育成 1. 児童・生徒会活動を中心に「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」を図った。 2. 障害のある子供、海外から帰国した子供、不登校の子供など特別な配慮を必要とする子供への指導の充実を図った。 3. 指導に当たっては、家庭や関連諸機関、地域との連携・協働を進めた。		健全育成 ○学園教育目標を踏まえ、 「多様な人々との対話や協働を通じて、新たな価値やよりよい社会を創造していく力」 「困難な場面に直面しても、ねばり強くかつ柔軟な発想で人生を切り拓いていく力」 の育成を図る。そのための教育計画の立案・実行を図る。

検証項目	(5) コミュニティ・スクールの運営	
	○ コミュニティ・スクール委員会の組織・運営 ○ 学校と保護者、地域住民との連携・交流	○ 保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○ その他
目標	・地域の人口増も踏まえて、新たなステージの三鷹の森学園の役割やその魅力を構想する。	
取組	1. 三鷹の森学園の「教育目標」の改訂（見直し・捉え直し）を行う。 2. 改訂学園教育目標を効果的に発信し、さらに三鷹の森学園の存在価値を高める 3. やりがいのあるCS委員会づくり	
成果		課題と改善方策
1. 学園開園以来10年ぶりの三鷹の森学園の「教育目標」の改訂（見直し・捉え直し）を行った。 2. 改訂学園教育目標を効果的に発信し、さらに三鷹の森学園の存在価値を高めるよう広報活動、評価活動を行った。 3. 「2017年の6つのミッション」を踏まえて、各部会が創造的・協働的にやりがいのあるCS活動が行えた。		○2019年の5つのミッション（案）の実現を通じて、CS委員会のさらなる活性化を図る 1. 学園学習サポーターの実施 2. CS推進委員の推薦 3. 広報活動のさらなる充実 4. 新教育目標を評価する学園評価の更新 5. 10周年記念行事の準備

平成29年度 三鷹の森学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (5) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと ○CS委員会としての目標（「2017年の6つのミッション」）をもち、熟議と協働を柱に、よりよく問題解決が行えた。 特に以下の4点については大きな成果が得られた。 1. 学園教育目標の改訂 2. コミュニティスクール・ガイドの改訂 3. 学園評価の改訂 4. 学園学習サポーターの設置（組織改革含む）
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること ○学園開園10周年（2019年）に向けて以下の4点を充実する 1. 新学園目標を踏まえた教育課程の改善 2. コミュニティスクールガイドを活用したCS並びにCS委員会の広報 3. 学園学習サポーターの本格運用と活用頻度の向上 4. 10周年記念行事の準備
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策 ○新たな一歩を着実に踏み出すために、以下を目標とする 1. 2019年のCS人財の確保 2. 10周年記念行事を地域全体のものとする実施計画とプロジェクトチームの結成